

「チャペルと私」

辻丸篤（1954年商学科卒）

中学・高校生時代から合唱を趣味にしていた私は、明治学院大学に入学した時から合唱団に入り、日々のチャペルでの礼拝では、前面に備えられたオルガンとともに讃美歌の合唱に参加、また合唱団の演奏会もチャペルで行われていました。明治学院中等部に在籍した藤原義江さんは藤原歌劇団を創設してテノールの男性歌手として「吾等のテナー」と愛称された憧れの人でした。ある日その藤原義江さんが母校のチャペルで独唱会を行ったが、「このチャペルはとても音響効果が良い……」と云われたことを今でも覚えています。在学中は知らなかったが、戦時中にご真影を掲げることが強要された明治学院は、チャペルの外壁にはめ込んだとのことで、今でもその残骸が残っており、平和な時代を続けるように見守っていると感じます。青春を共にしたチャペル、そして今でも同窓生として各種の行事にお世話になっているチャペルに感謝し続けたいと思います。